

# 日立金属株式会社

## 2017年度第3四半期累計決算説明

2018年1月29日

## 需要 動向

**世界経済は、先進国を中心に緩やかに回復  
国内は、世界経済の回復を受けて輸出や設備投資が  
持ち直すとともに、雇用・所得環境の改善が継続し、  
景気は緩やかな回復基調**

- **自動車は、新車販売台数が米国では前年同期と比べて減少したが、国内では新型車が需要をけん引する形で大きく伸長し、中国・欧州も堅調に推移**
- **産業インフラ関連は、鉄鋼は、自動車や産業機械をはじめとする製造業部門を中心に需要が増加  
住宅着工戸数は、横ばい圏で推移**
- **エレクトロニクス関連は、携帯端末の出荷台数が伸長**

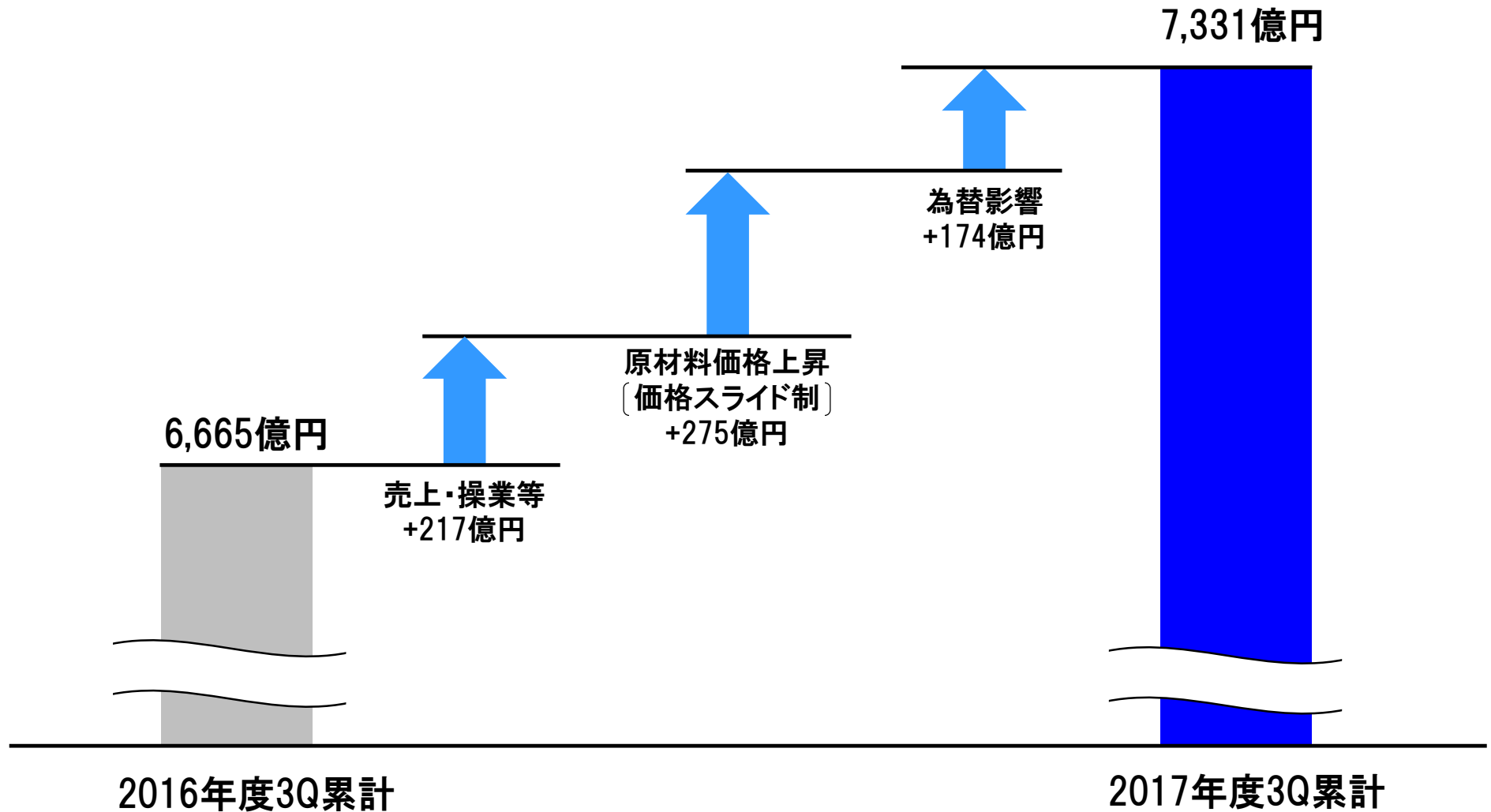
## 2. 2017年度第3四半期累計業績

(金額単位:億円) ( )は利益率	2016年度 3Q累計実績		2017年度 3Q累計実績		前年 同期比	補足
	1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円		1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円			
売上収益	6,665		7,331		+10%	主力製品を中心に需要が増加したことに加え、原材料価格上昇(価格スライド制)や為替の円安の影響により増加
調整後営業利益*1	(7.1%) 472		(6.5%) 478		+6	積極的な投資や原材料価格上昇に伴うコストの増加があったが、売上収益の増加に伴う利益の増加やモノづくり改革の効果等により増加
その他の収益	93		36		△57	前年同期は事業再編等利益を計上
その他の費用	△ 69		△ 90		△21	
IFRS営業利益	(7.4%) 496		(5.8%) 424		△72	
EBIT	495		456		△39	為替差損益の改善、持分法投資損益の改善
税引前四半期利益	476		441		△35	
法人所得税費用	△ 115		△ 92		+23	米国の税制改正による費用の減少
親会社株主に帰属する四半期利益	362		348		△14	
海外売上比率*2	55%		56%		+1%	

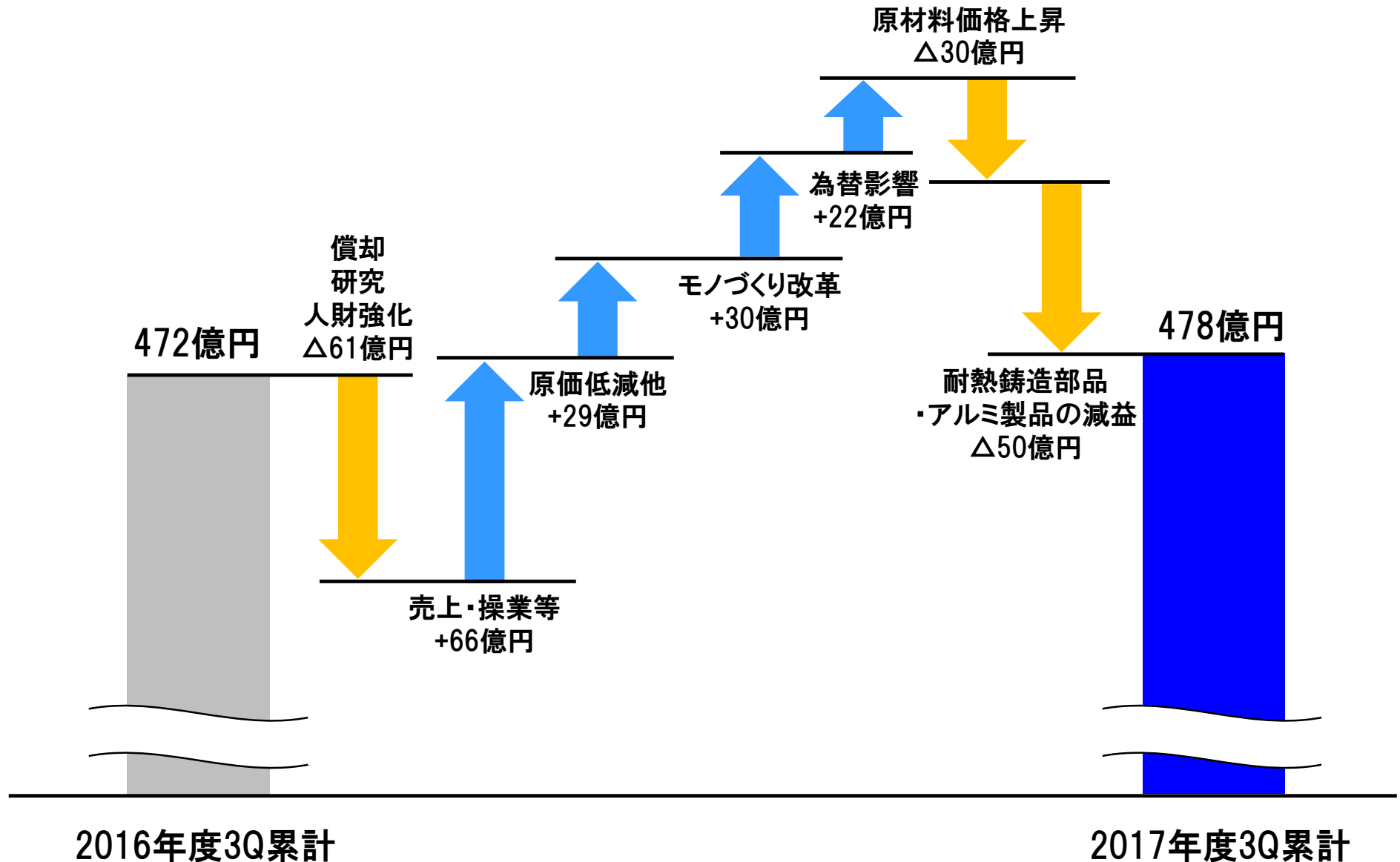
\*1 調整後営業利益:(売上収益) - (売上原価) - (販売費及び一般管理費)

\*2 海外売上地域別構成比 17年度3Q累計:北米30%、中国8%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%  
16年度3Q累計:北米30%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

### 3. 売上収益の増減要因(前年同期比)



# 4. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比)



# 5. 2017年度第3四半期累計 セグメント別業績

(金額単位: 億円) ( )は利益率		2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年 同期比
		1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	
特殊鋼製品	売上収益	1,740	2,153	+24%
	調整後営業利益	(9.9%) 172	(9.5%) 204	+32
	セグメント利益	(9.1%) 159	(9.3%) 200	+41
磁性材料	売上収益	736	792	+8%
	調整後営業利益	(8.7%) 64	(8.7%) 69	+5
	セグメント利益	(8.7%) 64	(8.6%) 68	+4
素形材製品	売上収益	2,421	2,666	+10%
	調整後営業利益	(5.1%) 124	(3.2%) 85	△39
	セグメント利益	(4.9%) 119	(2.7%) 73	△46
電線材料	売上収益	1,759	1,714	△3%
	調整後営業利益	(5.7%) 100	(6.4%) 109	+9
	セグメント利益	(8.3%) 146	(4.3%) 74	△72
その他・調整額	売上収益	9	6	—
	調整後営業利益	12	11	△1
	セグメント利益	8	9	+1
合計	売上収益	6,665	7,331	+10%
	調整後営業利益	(7.1%) 472	(6.5%) 478	+6
	IFRS営業利益	(7.4%) 496	(5.8%) 424	△72

2017年7月1日付で、連結子会社である株式会社SHカップパープロダクツ他1社の所属するセグメント区分を「電線材料」から「特殊鋼製品」に変更し、SHカップパープロダクツ他1社の当第3四半期連結累計期間(2017年4月1日~2017年12月31日)の業績は、「特殊鋼製品」セグメントに計上

# 6. セグメント別業績：特殊鋼製品(1)

## ■全体概況

### 【売上収益・調整後営業利益】

工具鋼、産業機器材料、電子材料を中心に需要が伸長し、増収・増益

## ■製品別状況

### 【特殊鋼】

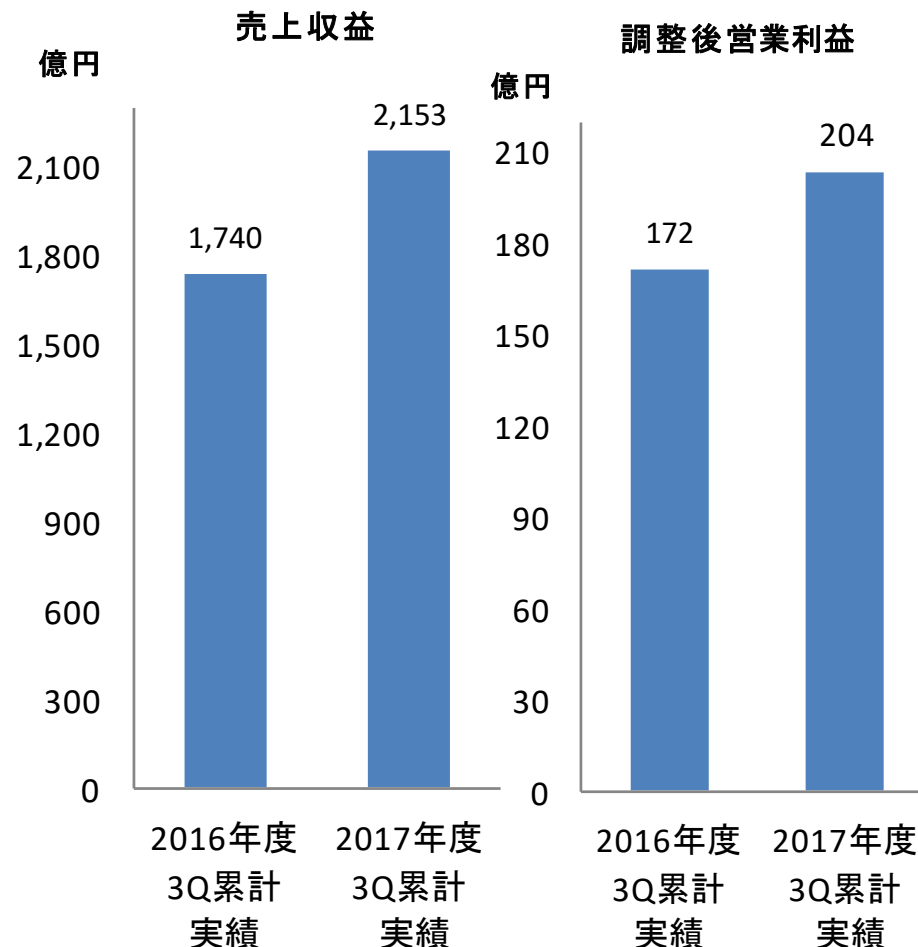
- ・工具鋼：国内向け、アジア向けともに需要が回復し、前年同期を上回った
- ・産業機器材料：自動車関連の環境親和製品が増加したことに加え、その他産業部材でも半導体関連装置向け部材が増加したことにより、前年同期と比べ伸長
- ・電子材料：半導体パッケージ材料が好調となったことに加え、電池用材料や有機ELパネル関連部材が増加した結果、前年同期を大きく上回った
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料：低調

### 【ロール】

- ・射出成形機用部品：携帯端末の需要増加を受けて好調
- ・各種ロール：高付加価値製品に経営資源を集中することを目的に、2016年9月に中国子会社の生産を打ち切りこの結果、ロール全体としては前年同期と比べて減少

### 【軟磁性部材】

軟質磁性材料およびその応用品については、応用品が携帯端末や自動車向けの需要増加により堅調となったが、アモルファス金属材料が減少したことにより、全体としては前年同期を下回った



# 7. セグメント別業績：特殊鋼製品(2)

(金額単位：億円)		2016年度 3Q累計実績 1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	2017年度 3Q累計実績 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	前年 同期比
特殊鋼製品	売上収益	1,740	2,153	+24%
	特殊鋼 <sup>◎</sup>	1,369	1,807	+32%
	工具鋼 <sup>□</sup>			+9%
	産業機器材料 <sup>□</sup>			+13%
	航空機・エネルギー <sup>□</sup>			△7%
	電子材料 <sup>□</sup>			+84%
	ロール <sup>◎</sup>	160	156	△3%
	軟磁性部材 <sup>◎</sup>	210	190	△10%
	調整後営業利益	172	204	+32
	調整後営業利益率	9.9%	9.5%	△0.4%
セグメント利益	159	200	+41	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示



# 8. セグメント別業績：磁性材料(1)

## ■全体概況

### 【売上収益・調整後営業利益】

自動車用電装部品や産業機器関連が好調となり、増収・増益

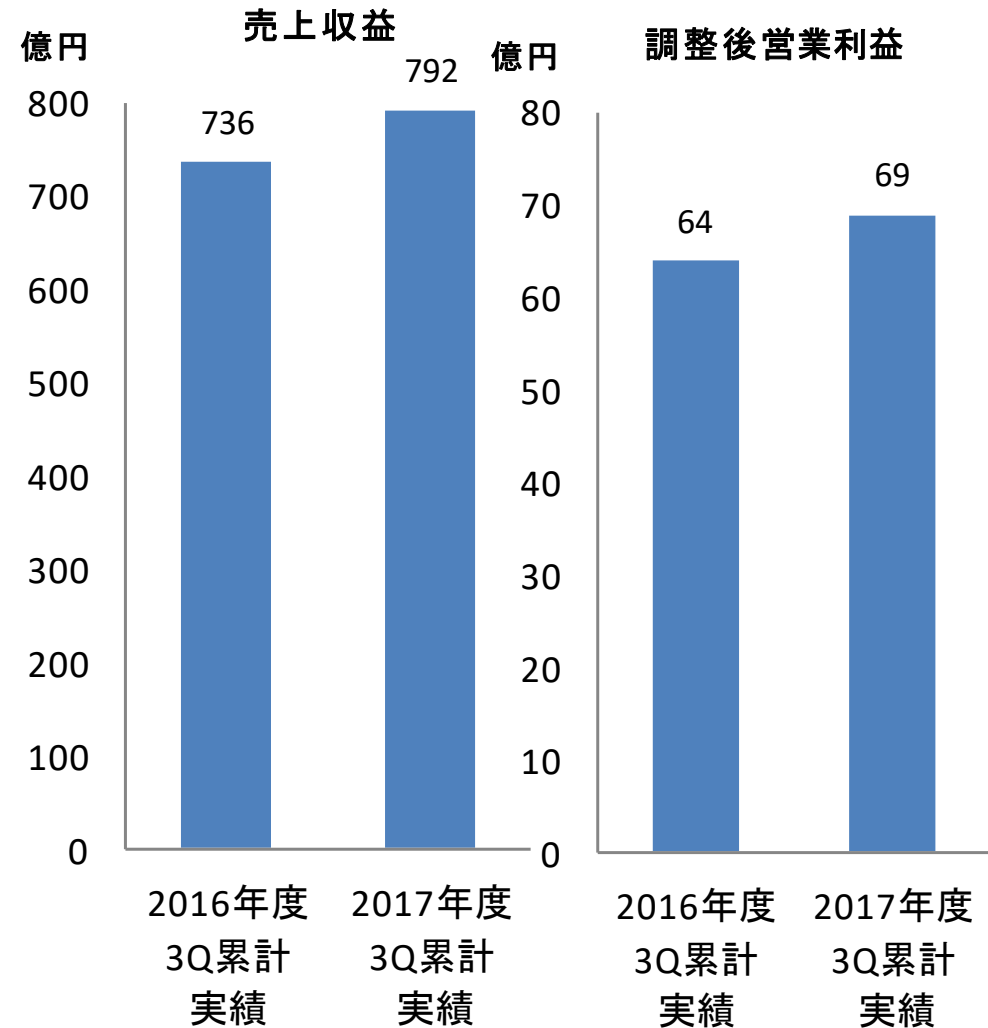
## ■製品別状況

### 【希土類磁石】

電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が増加  
また、産業機器関連もフラットパネルディスプレイや携帯端末および半導体等向けの設備投資関連需要の増加を受けて好調  
この結果、全体としても前年同期を上回った

### 【フェライト磁石】

自動車生産の伸びに伴い自動車用電装部品が好調となり、家電用部品も堅調に推移したため、前年同期と比べ増加



# 9. セグメント別業績：磁性材料(2)

(金額単位：億円)		2016年度 3Q累計実績 1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	2017年度 3Q累計実績 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	前年 同期比
磁性材料	売上収益	736	792	+8%
	希土類磁石（重量）			+8%
	フェライト磁石（重量）			+3%
	調整後営業利益	64	69	+5
	調整後営業利益率	8.7%	8.7%	0.0%
	セグメント利益	64	68	+4

# 10. セグメント別業績：素形材製品(1)

## ■全体概況

### 【売上収益】

鑄鉄製品や耐熱鑄造部品の需要増加により増収

### 【調整後営業利益】

耐熱鑄造部品やアルミホイールの収益性の低下により減益

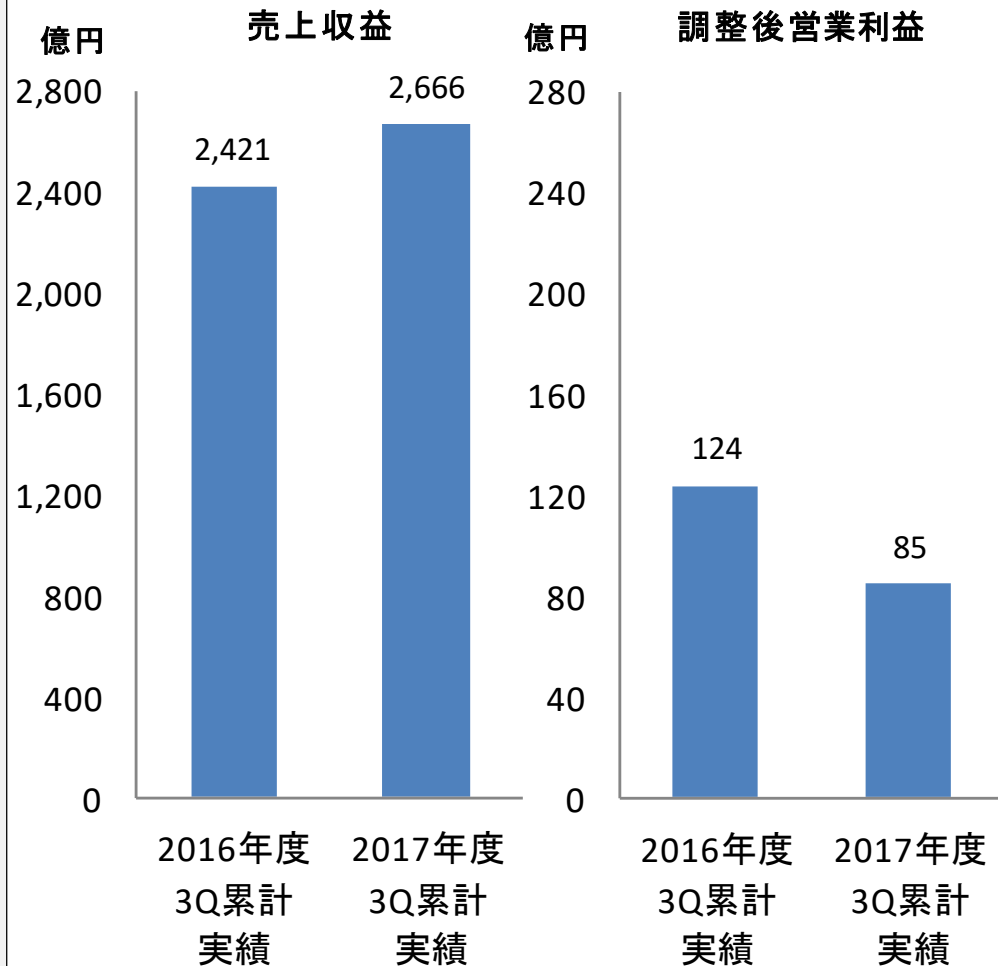
## ■製品別状況

### 【自動車用鑄物】

- ・鑄鉄製品：北米では、ピックアップトラックなどのライトトラック向けや乗用車向けが減少した一方で、商用車や農業機械・建設機械向けの需要が増加  
また、アジアでも自動車需要の伸長に伴い増加  
この結果、全体としては前年同期と比較して増加
- ・耐熱鑄造部品：売上収益は米国・欧州・アジア・国内向けともに前年同期を上回ったが、生産性に関する課題等により、利益面では前年同期を下回った
- ・アルミホイール：北米の乗用車需要が減少した影響や生産性に関する課題等により、前年同期を下回った

### 【配管機器】

継手類は、米国では住宅着工戸数が増加したことや、国内では大規模建設工事案件が増加したことにより堅調。  
また、半導体関連の需要の増加を受けて半導体製造装置用機器が好調  
この結果、配管機器全体としては前年同期を上回った



# 11. セグメント別業績：素形材製品(2)

(金額単位: 億円)		2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年 同期比
		1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	
素形材製品	売上収益	2,421	2,666	+10%
	自動車用鋳物 <sup>◎</sup>	2,061	2,276	+10%
	鋳鉄製品(重量)			+3%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト <sup>®</sup> (重量)			+44%
	アルミホイール(本数)			△20%
	配管機器 <sup>◎</sup>	360	390	+8%
	調整後営業利益	124	85	△39
	調整後営業利益率	5.1%	3.2%	△1.9%
	セグメント利益	119	73	△46

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

# 12. セグメント別業績：電線材料(1)

## ■全体概況

### 【売上収益】

事業ポートフォリオ刷新を目的とした事業再編の影響により減収

### 【調整後営業利益】

注力分野の増加に伴い、増益

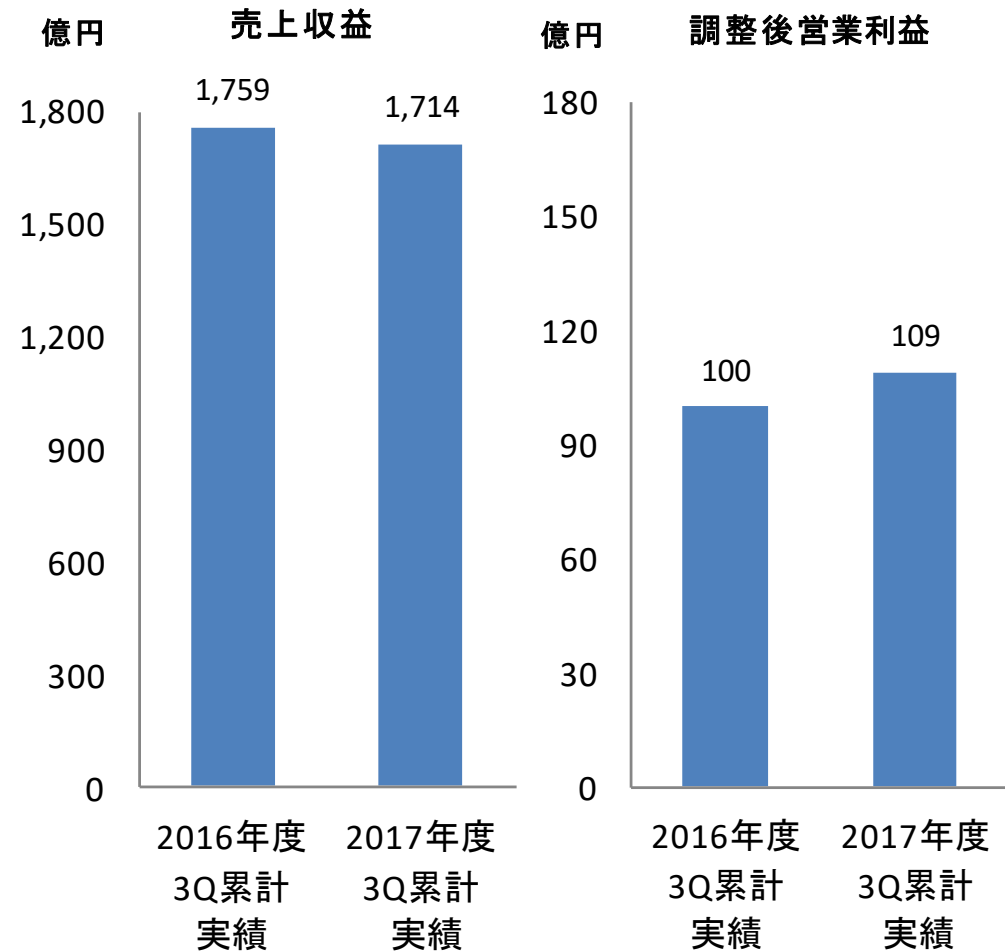
## ■製品別状況

### 【電線】

鉄道車両用電線が中国向けをはじめとして大きく伸長  
また、機器用電線が半導体製造装置向けや工作機械向けが増加したほか、巻線も自動車向けや産業機械向けが好調

### 【機能品】

- ・自動車部品：各種センサや、電動パーキングブレーキおよびハイブリッド自動車向けのハーネスが伸長し、ブレーキホースも堅調
- ・医療用プローブケーブル：海外向けの需要が増加し、前年同期を上回った



# 13. セグメント別業績：電線材料(2)

(金額単位: 億円)		2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年 同期比
		1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	
電線材料	売上収益	1,759	1,714	△3%
	注力分野			
	鉄道□			+29%
	医療□			+15%
	電装部品□			+20%
	調整後営業利益	100	109	+9
	調整後営業利益率	5.7%	6.4%	+0.7%
セグメント利益	146	74	△72	

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

# 14. 資産/負債・純資産

(金額単位: 億円)	2016年度末 1\$=112円 1€=120円 1元=16.3円	2017年12月末 1\$=113円 1€=135円 1元=17.3円	増減
資産合計	10,404	10,540	+136
うち売上債権及び棚卸資産	3,291	3,904	+613
負債合計	4,916	4,803	△113
うち有利子負債	1,945	1,685	△260
親会社株主持分	5,366	5,658	+292
非支配持分	122	80	△42
親会社株主持分比率	51.6%	53.7%	+2.1%
D/Eレシオ(倍)	0.36	0.30	△0.06

【資産】 2016年度末比 136億円増加

⇒売上債権、棚卸資産の増加等

【負債】 2016年度末比 113億円減少

【D/Eレシオ】 ほぼ横ばい

# 15. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位: 億円)	2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年同期比
営業活動に関するキャッシュ・フロー	438	126	△312
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 268	△ 576	△308
フリー・キャッシュ・フロー	170	△ 450	△620
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	△ 22	△ 469	△447

## 【営業キャッシュ・フロー】

四半期利益の減少や、売上債権、棚卸資産の増加等により、前年同期比312億円の減少

## 【投資キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得の増加(2016年度3Q累計442億円→2017年度3Q累計588億円)や有価証券等の売却の減少により、前年同期比308億円の減少

## 【フリー・キャッシュ・フロー】

営業キャッシュ・フロー減少と投資活動増加に伴い、前年同期比620億円の減少

\* コア・フリー・キャッシュ・フロー:(営業活動に関するキャッシュ・フロー) - (資本的支出)



# 16. 2017年度業績予想修正

(金額単位:億円) ( )は利益率	2016年度		2017年度		従来 予想比
	実績		従来予想	今回予想	
	1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円		2017年4月28日公表 1\$=110円	2018年1月29日公表 1\$=111円	
売上収益	9,105		9,500	9,900	+4%
調整後営業利益	(7.2%) 660		(8.4%) 800	(6.9%) 680	△120
EBIT	685		660	600	△60
税引前利益	660		630	580	△50
親会社株主に帰属する当期利益	506		450	450	0
ROE*1	9.4%		8.1%	8.1%	0.0%
ROA*2	4.9%		4.3%	4.2%	△0.1%

- 需要増加、原材料価格上昇(価格スライド制)、為替の円安による売上収益の増加
- 耐熱鋳造部品、アルミ製品の収益性の低下
- 原材料価格上昇に伴うコストの増加

\*1 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社所有者帰属持分 × 100

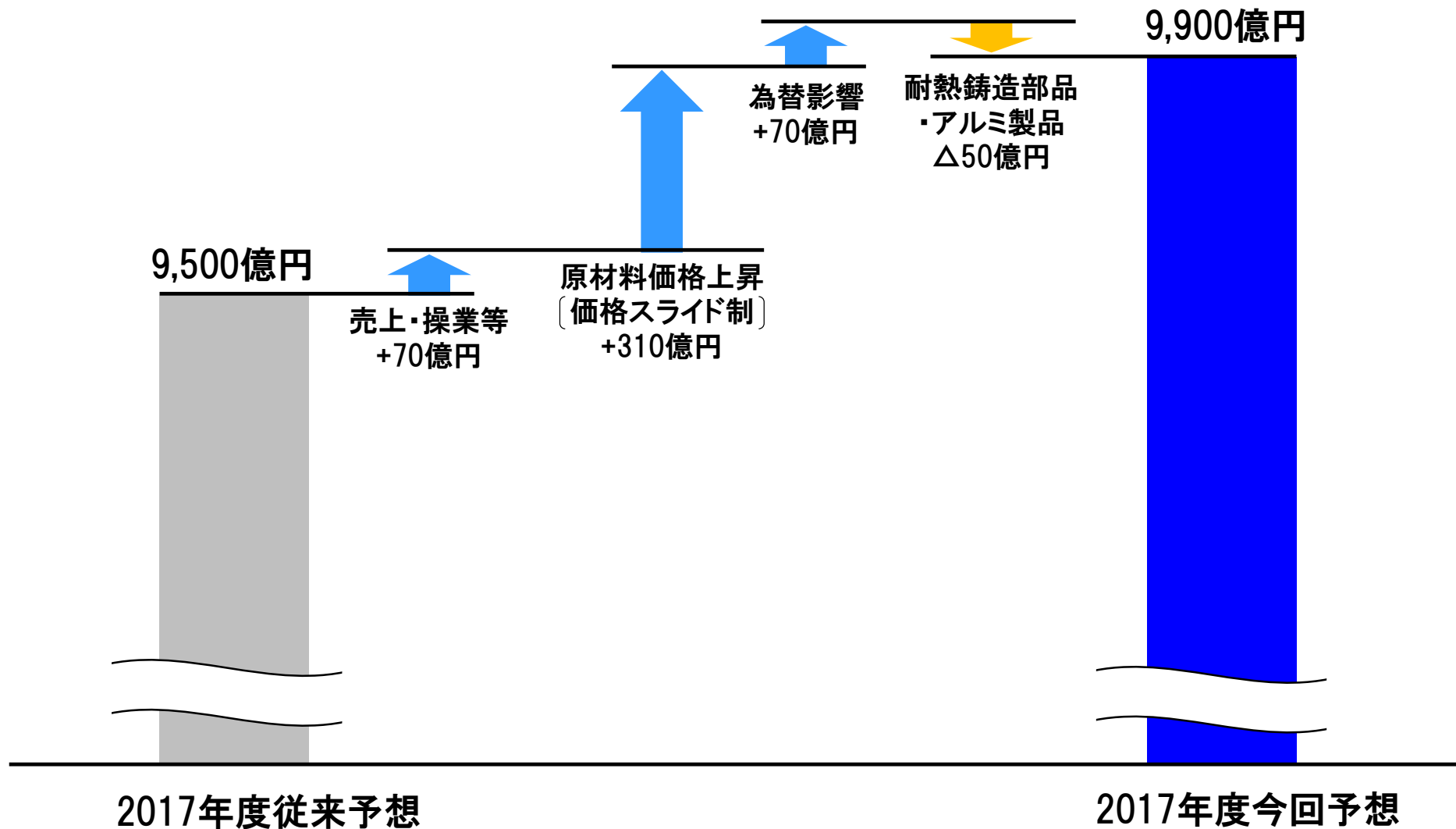
\*2 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

# 17. セグメント別売上収益 調整後営業利益予想修正

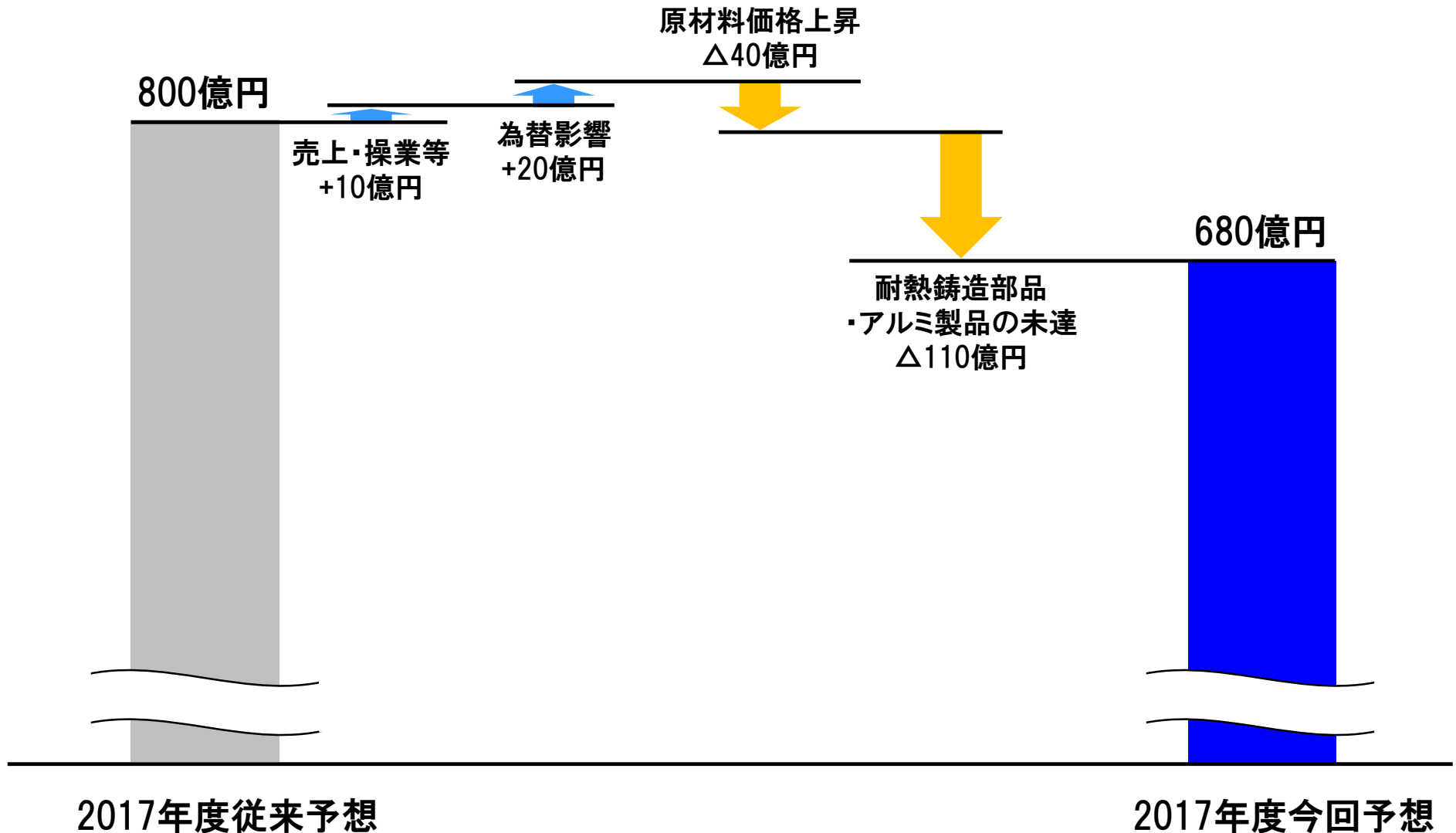
(金額単位: 億円)		2016年度	2017年度		従来 予想比
		実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	従来予想 2017年4月28日公表 1\$=110円	今回予想 2018年1月29日公表 1\$=111円	
特殊鋼製品	売上収益	2,432	2,900	2,930	+1%
	調整後営業利益	235	300	295	△5
	利益率	9.7%	10.3%	10.1%	△0.2%
磁性材料	売上収益	998	1,100	1,070	△3%
	調整後営業利益	93	115	100	△15
	利益率	9.3%	10.5%	9.3%	△1.2%
素形材製品	売上収益	3,335	3,400	3,570	+5%
	調整後営業利益	175	215	120	△95
	利益率	5.2%	6.3%	3.4%	△2.9%
電線材料	売上収益	2,329	2,100	2,320	+10%
	調整後営業利益	147	170	155	△15
	利益率	6.3%	8.1%	6.7%	△1.4%
その他・調整額	売上収益	11	0	10	—
	調整後営業利益	10	0	10	+10
合計	売上収益	9,105	9,500	9,900	+4%
	調整後営業利益	660	800	680	△120
	利益率	7.2%	8.4%	6.9%	△1.5%

2017年7月1日付で、連結子会社である株式会社SHカップープロダクツ他1社の所属するセグメント区分を「電線材料」から「特殊鋼製品」に変更し、セグメント変更後の数値を記載

# 18. 売上収益の増減要因(従来予想比)



# 19. 調整後営業利益の増減要因(従来予想比)



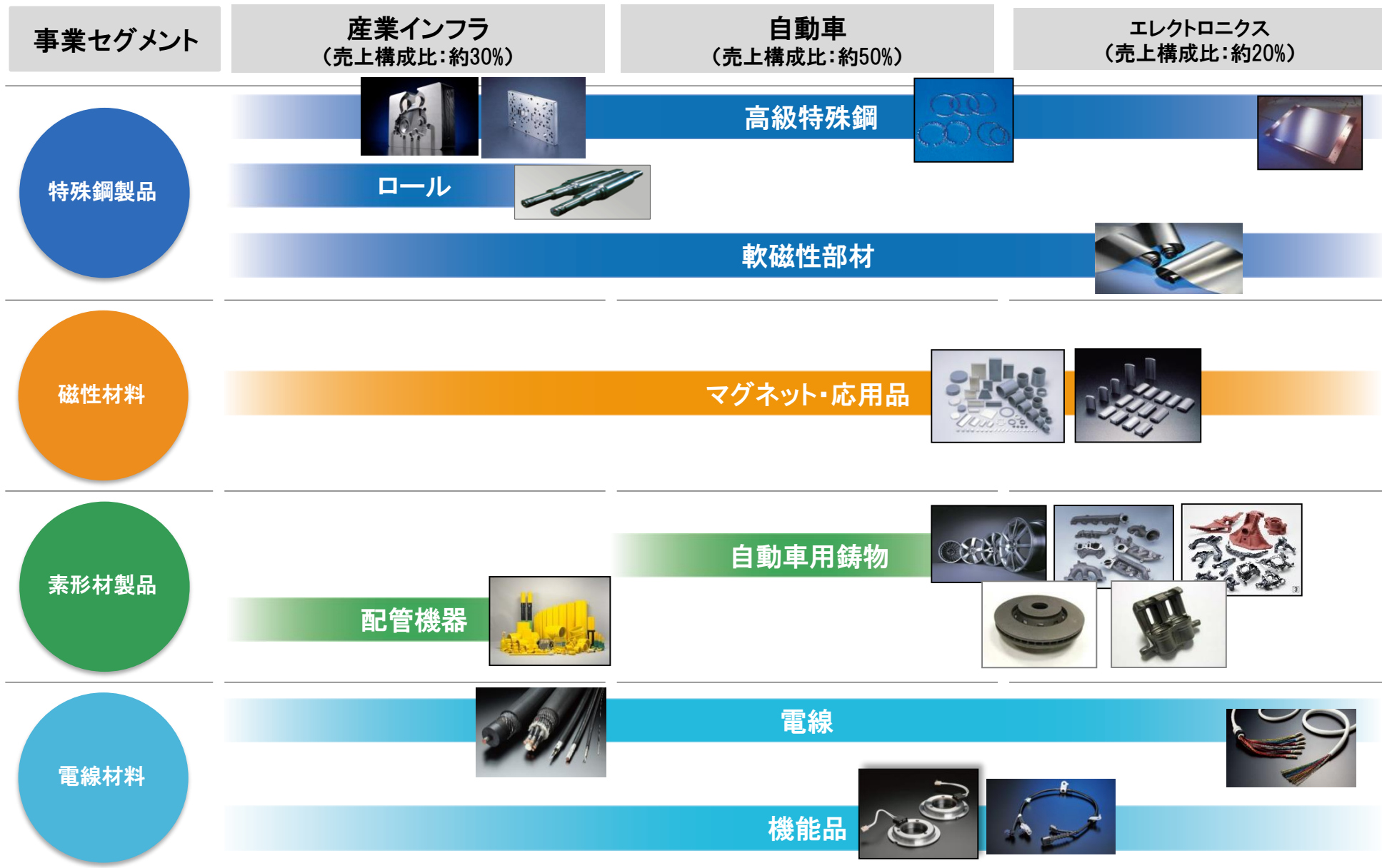
# 参考データ(1)

(金額単位: 億円)	2016年度 実績	2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	2017年度 今回予想
	1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	1\$=107円 1€=118円 1元=16.0円	1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	2018年1月29日公表 1\$=111円
売上収益	9,105	6,665	7,331	9,900
調整後営業利益	660	472	478	680
調整後営業利益率	7.2%	7.1%	6.5%	6.9%
その他の収益	141	93	36	
その他の費用	△ 118	△ 69	△ 90	
IFRS営業利益	683	496	424	
EBIT	685	495	456	600
税引前当期(四半期)利益	660	476	441	580
親会社株主に帰属する当期利益	506	362	348	450
有利子負債	1,945	2,092	1,685	
設備投資額	638	433	592	880
減価償却費	430	319	345	460
研究開発費	180	137	125	180
D/Eレシオ(倍)	0.36	0.40	0.30	0.30
1株当たり当期利益(円)	118.32	84.65	81.41	105.24
1株当たり配当金(円)	26.0	13.0	13.0	26.0
1株当たり親会社株主持分(円)	1,254.9	1,230.9	1,323.3	1,333.1
人員(人)	28,754	28,290	30,390	30,400
ROE	9.4%			8.1%
ROA	4.9%			4.2%
海外売上比率	56%	55%	56%	

## 主要製品 重量動向 (2017年度3Q累計)

製 品		前年同期比
特殊鋼製品	工具鋼	+3%
	CVTベルト材	+16%
	ピストンリング材	+11%
磁性材料	希土類磁石	+8%
素形材製品	鋳鉄製品	+3%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト <sup>®</sup>	+44%
	アルミホイール(本数)	△20%

# (参考) マーケット分野別事業構造



# (参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2017年10月1日～)

## ■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
 特殊鋼製品	特殊鋼カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ](工具鋼、電子材料<ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料>、産業機器材料<自動車関連材料、剃刃材および刃物材>、航空機・エネルギー関連材料、精密鋳造品) <small>※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。</small>
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
 磁性材料	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
 素形材製品	素形材カンパニー	
	自動車用鋳物	自動車用鋳物(高級ダクタイル鋳鉄製品 [HNM®]、輸送機向け鋳鉄製品、排気系耐熱鋳造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品
	配管機器	設備配管機器(☺®印各種管継手・各種バルブ、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
 電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース



本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動